

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：32693

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11733

研究課題名（和文）小児高度実践看護師の子どもと家族の包括的アセスメント育成プログラム開発

研究課題名（英文）Development of comprehensive child and family health assessment for pediatric advanced practice nurse

研究代表者

江本 リナ（EMOTO, Rina）

日本赤十字看護大学・看護学部・教授

研究者番号：80279728

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、小児看護を専門とする高度実践看護師の包括的アセスメント育成プログラム開発を目指し、これまでに包括的なアセスメントとは何を指すのか、アセスメントの内容を学ぶ方法、教育プログラムの案を検討することを目的とした。さまざまな分野で小児看護を実践している看護師へのヒアリングにより、アセスメント枠組みの示唆が得られた。また、子どもの症状を見逃さず医療機関を超えて情報共有するためのアセスメントスキルを習得するシミュレーションプログラムを検討した。身体的アセスメントの他、広い視点による包括的アセスメントの枠組みを大学院で教育する際のカリキュラムの検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、子どもと家族を取り巻く社会は変化し、子どもが健やかに成長・発達するには生育過程で何らかの医療を受けている現状があり、小児医療が抱える課題は多岐にわたる。小児高度実践看護師にはこれらに対応する実践能力が求められていることから、様々な病態を呈する子どもの身体的なアセスメントに加え、地域で生活する子どもの包括的アセスメントスキルが養われることで、多様化する社会、医療、保健ニーズに対応し、多面的な支援を可能にすることができる。また、これらの能力を備えることで、小児高度実践看護師が入院施設のみならず、地域の医療福祉施設での活躍も期待できる。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research was to identify comprehensive assessment, learning strategies, and to develop comprehensive child and family health assessment program for pre-pediatric certified nurse specialist. Informal interviews with the nurses at the community-based facilities suggested assessment frames. Simulation program to earn assessment skills was investigated. The results indicates simulation was an effective strategy to reflect own assessment skills. Educational program needs to be developed to improve the comprehensive assessment skills to focus on the community life for children and family by combining simulation in the class and nursing practice for child and family in the community.

研究分野：看護学

キーワード：高度実践看護師 アセスメント 包括 シミュレーション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

近年、子どもの貧困、児童虐待、保育園待機児童、子どものいじめや自殺、災害の影響を受けた子どもの生活変化など、子どもと家族を取り巻く社会は厳しい局面にさらされている。また、小児病棟・外来の縮小化、高度医療に伴う子どもの疾病構造の複雑化、医療依存度の高い子どもの増加と受け皿の限界、発達障害の表面化といった小児医療が抱える課題は多岐にわたる。厚生労働省の「新たな看護のあり方に関する検討会報告書」では、国民のニーズが多様化し看護師に期待する役割が拡大していることを指摘している。このように多様化する社会・医療・保健ニーズに敏感に対応し卓越した看護援助を担う看護師が求められている。こうした社会の要請に応えるべく、入院施設および地域医療施設を問わず、看護師には、子どもと家族の成長・発達、育児、生活、健康、疾病、医療資源などを多面的に、そして包括的に捉えることのできるアセスメント能力が必要である。小児看護の専門性がこれまで以上に期待されているなか、2012年より専門看護師教育課程において、高度な臨床能力を備えるため、診断と治療過程・臨床生理学・臨床薬理・アドバンスなフィジカルアセスメントなどの医学的知識を応用し、グローバル水準を備えた高度実践看護師教育が始まった。まさに、高度実践看護師によって、医学的知識と看護知識とを癒させた子どもと家族の卓越した包括的アセスメントが可能となる。しかし、このような小児高度実践看護師の育成実績が国内では未だ少ないことから、包括的アセスメントはどのような技術を要し、どのように育成していったらよいか未知な部分が多い。

基礎看護教育から現任看護師教育において、小児フィジカルアセスメントの教育プログラムや教育方法の開発は行われている。中でも、フィジカルアセスメントやクリティカルケアをシミュレーション法によって修得する教育方法に関する研究や実践報告が、国内外においてここ数年増えている。しかし本研究が着目する包括的アセスメントは、単にフィジカルアセスメントや健康レベル査定に留まらず、子どもと家族を取り巻く社会環境や疾病の治療過程を含める総合的なアセスメントである点において、新しい視点での教育法の検討が必要である。一方、多様な背景をもつ子どもと家族の身体・心理・社会的側面に迫るため、実際のケースを限りなく再現して学ぶ必要もある。従って、包括的アセスメント育成においてシミュレーションの可能性も考えられるが、その可能性について未だ明らかにされていない。

2. 研究の目的

本研究は、小児高度実践看護師の子どもと家族の包括的アセスメント育成プログラムを開発することを目的とした。

3. 研究の方法

3段階を経て包括的アセスメント育成プログラムを検討した。

(1) ヒアリングによるアセスメント内容の検討

医療福祉施設で子どもと家族の看護に携わっている看護師を対象にヒアリングを行い、看護をする上で着目している点を抽出した。

(2) シミュレーションのトライアル

身体的アセスメントを行う手立てとしてシミュレーションを用い、シミュレーションプログラムを検討した。

(3) 包括的アセスメント項目の検討

ヒアリングおよびシミュレーショントライアルを統合し、子どもと家族の包括的アセスメントの内容と育成プログラムの可能性を検討した。

4. 研究成果

(1) ヒアリングによるアセスメント内容の検討

子どもが入院する病棟、小児科外来、小児科診療所、保健センター、小児福祉施設、電話相談所、子どもを専門とする訪問看護ステーション、保育園に務める看護師、および養護教諭を対象にヒアリングを行い、それぞれのフィールドにおいて看護師が何を意識して看護を行っているかを探った。

その結果、共通して重視している点として、疾病がない状況や疾病や障がいがある状況にある子どもの成長と発達、これからの子どもの成長と発達の可能性、何気ない様子や言動から把握する家族による子育ての力、家族と子どもの生活状況、家庭内の生活環境、家庭内および家庭外での家族と子どもの心身の様子、児童虐待の兆候、地域にある医療福祉サービスの活用状況、慢性疾患を患う子どもの診療・看護の継続、直接的あるいは間接的に関わる子どものフィジカルアセスメント、家族および子ども自身による健康管理状況などが挙げられた。

子どもと家族に携わる看護師は子どもが地域で暮らすことに重点を置き、常に成長・発達する子どもの状況に合わせて子どもと家族のニーズを探っていることが明らかにされ、子どもと家

族の包括的アセスメントとは、子どもと家族を幅広い側面から全体的に捉えることであると示唆された。また、入院施設とは異なる医療福祉施設においては、短時間で子どもと家族の状況を把握することが求められていたことから、子どものからだところのアセスメント能力の向上が求められていることが見出された。

(2) シミュレーションのトライアル

子どものフィジカルアセスメント能力を向上させるにはスキルを磨く必要があるが、健康な子どもや病態が複合的で複雑な子どものフィジカルアセスメントを実践する前段階として、失敗が可能なシミュレーションの必要性が考えられた。そこで、シミュレーションによる学習に向け、シミュレーションのプログラミングを検討し、トライアルを行った。

シミュレーションとして喘息がある子どもの事例を用い、高機能シミュレーターによるフィジカルアセスメントを検討した。喘息を取りあげた理由は、喘息様症状を呈する子どもは保育園や幼稚園、学校に通いながら成長・発達するため、子どもが過ごす場所にいる看護師は常に病状を把握することが求められている。また、家庭で症状をコントロールする必要があるため家族への指導が必要になる。以上のことから、どの医療福祉施設にいても慢性疾患がある子どものアセスメントに応用できるという点からであった。

小児看護学を専門とする教員および現役で小児看護を実践している看護師と共に、喘息がある幼児の事例を用いたシミュレーション内容を検討したところ、①フィジカルアセスメントの視点が考えられる、②成長・発達を考慮したコミュニケーションを話し合える、③子どもの最善の利益を守るアセスメントの仕方を考えられる、④アセスメントした内容を科学的根拠を持って医療者に伝えるスキルを身につける、という学習目標が立てられた。この学習目標を達成するために、具体的な事例の設定を行い、高機能シミュレーターを用いて不測の病態変化を伴うシナリオに対応する体系的なフィジカルアセスメントを行い、シミュレーションを行った後のデブリーフィングを通してお互いのスキルをリフレクションするというプロセスを考案した。

看護師によってこのプロセスのトライアルを行ったところ、個人レベルでスキルを習得することができることや、シミュレーションを複数の人で行うことで他者のアセスメントを取り入れながら学ぶことが可能となることや、見ているだけでも他者のアセスメントの視点を学ぶことができることや、観察したことを科学的に伝えることの重要性を学習することができるという感想が得られた。

トライアルの結果から、こどもの病状を的確に判断するためにフィジカルアセスメントのシミュレーションは効果的であることや、臨床で自分がどのようにアセスメントしていたかを振り返る機会に繋がることや、シミュレーションを複数の人で行うことでお互いのアセスメントスキルの向上に役立てられることが示唆された。しかし今回は喘息がある幼児を例に組み立てたシミュレーションであるため、発達段階別や健康レベル別に対応したシナリオの試作は今後の課題である。

(3) 包括的アセスメント項目の検討

子どもと家族の包括的アセスメントの軸を以下のように検討した。

①子どもの成長と発達
②育児やヘルスケアに対する家族の役割
③地域で利用できる資源
④子どもの安心・安全
⑤生活環境
⑥児童虐待のリスク
⑦子どもと家族による療養行動
⑧フィジカルアセスメント

(4) 教育プログラムの試案

小児看護専門看護師の教育課程において、子どもと家族の暮らしに着目した包括的アセスメントの育成が求められている。包括的に捉えるには、子どもの病態はもちろんのこと、子どもと家族が暮らしている地域を理解し、その地域で得られる医療や福祉制度、子どもと家族の心理社会的な成長・発達などを把握する必要がある。大学院生が健康な状態から病態が複合している状態にある子どものあらゆるケースに直接出会うことは難しいが、実際の事例を基に包括的アセスメントをする機会を持つことが重要と考える。それには様々な医療福祉機関での看護に触れることも有効と考える。

今回は包括的アセスメントを検討したが、大学院で学習したことが実践でどのように活かされるのか、大学院修了後にどのように包括的アセスメントが向上していくかを検討していくことが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 江本 リナ、玉木 絢子	4. 巻 14
2. 論文標題 低出生体重児の親の支援の重要性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こどもと家族のケア	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江本 リナ	4. 巻 308
2. 論文標題 健やかに子どもが育つために看護師の専門性を保育で活かす	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全国保育協議会	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江本 リナ	4. 巻 38
2. 論文標題 子どもの暮らしと共に歩む看護師	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1096-1101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 玲子	4. 巻 38
2. 論文標題 電話相談を行っている看護師の実践 小児救急電話相談（#8000）	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1143-1153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川名 るり	4. 巻 38
2. 論文標題 診療所の実践と看護師の活躍	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1154-1161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田 智子	4. 巻 38
2. 論文標題 乳児院で活躍する看護師の実践	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1162-1170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江本 リナ	4. 巻 38
2. 論文標題 保育所における看護師の活躍	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1171-1175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江本 リナ	4. 巻 38
2. 論文標題 病児・病後児保育に携わる看護師の活躍	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1176-1182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Rina EMOTO, Ruri KAWANA, Tomoko YAMAUCHI, Tomoko KUSUDA, Mayumi TSUTSUI
2. 発表標題 Development of comprehensive child and family health assessment for pediatric advanced practice nurse
3. 学会等名 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Susan LEE, Patric PALMIERI, Jean WATSON	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer Publishing Company	5. 総ページ数 229
3. 書名 Global Advances in Human Caring Literacy	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	筒井 真優美 (TSUTSUI Mayumi) (50236915)	日本赤十字看護大学・看護学部・教授 (32693)	
研究分担者	川名 るり (KAWANA Ruri) (70265726)	日本赤十字看護大学・看護学部・准教授 (32693)	
研究分担者	山内 朋子 (YAMAUCHI Tomoko) (70460102)	日本赤十字看護大学・看護学部・講師 (32693)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	太田 智子 (OOTA Tomoko) (80711093)	日本赤十字看護大学・看護学部・助教 (32693)	
研究分担者	吉田 玲子 (YOSHIDA Reiko) (80735043)	日本赤十字看護大学・看護学部・助教 (32693)	
研究分担者	鶴巻 香奈子 (TSURUMAKI Kanako) (80616061)	日本赤十字看護大学・看護学部・助教 (32693)	
研究分担者	神谷 美帆 (KAMIYA Miho) (10737589)	日本赤十字看護大学・看護学部・助教 (32693)	
研究協力者	鈴木 健太 (SUZUKI Kenta)	えがおさんさん訪問看護ステーションさんさん・看護師	
研究協力者	鈴木 翼 (SUZUKI Tsubasa)	埼玉県立小児医療センター・看護部・看護師	
研究協力者	天野 優 (AMANO Yu)	東小金井駅前こどもクリニック・看護師	
研究協力者	布間 瞳美 (FUMA Hitomi)	東京大学医学部附属病院・看護部・看護師	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	柴田 純子 (SHIBATA Junko)	日本赤十字看護大学・大学院看護学研究科修士課程	